

# のびゆく東丘

名古屋市立東丘小学校

校訓：(人)を大切に (物)を大切に (夢)を大切に ★

9月15日(土)に行われた授業参観には、たくさんの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。夏休みに子どもたちが頑張って製作に取り組んだ作品や自由研究をご覧いただけましたでしょうか。

この授業参観の折に、今年度も5・6年生とその保護者の皆様を対象とした「命の大切さを考える講演会」を行いました。今年は、5年前に最愛の息子さんをいじめによる自死で失ったお母さんにお越しいただき、言葉の大切さや命の大切さについてお話いただきました。今回の講演会の内容を多くの保護者の方に知っていただきたく、その一部ではありますが紹介をさせていただきます。



## 命の大切さを考える講演会

…もう一度考えてみてね。あなたの発している、あなたのその言葉で、人の心を傷つけていないかなっていうことを。「傷つける言葉、傷つける言葉って、じゃあ、なんて言ったら良いの？私が傷つく言葉とあなたが傷つく言葉は違うかもしれない。わたしが平気だと思って言った言葉、ひょっとしたらあの子は傷ついちゃうかもしれない。じゃあ、なんて言ったらいいか分からないよ。」もし、そんな風に思った子がいたら、私はね、**相手の子が、笑顔になる言葉を言ってあげるといい**と思います。思わず笑顔になっちゃう言葉。…

自分がうれしいなあ、言われて気持ちいいなっていう言葉、そんな言葉をどんどん相手に投げかけてあげると、言葉ってね、魂があるんだ。言霊って聞いたことありますか？言葉って魂もっているから、相手の心にどんどん入って行って、良いことも悪いこともね。どうせ相手の心に入っていくんだったら、いいこと言ってあげよう。うれしいこと言ってあげよう。笑顔になること言ってあげよう。あなたが何気なく言ったその言葉、あなたが思っている以上に相手の心をすごくハッピーな幸せな気持ちにしてあげることができるかもしれない。あなたのその一言で、クラスの雰囲気が変わるかもしれません。マイナスの言葉を言っている子がいたら、あれ、おかしいぞって雰囲気を出してあげる。うれしい、気持ちいい言葉を出してくれる子がいたら、思いっきりその子に対して反応してあげる。どんな小さなことからでも、あなたの今いるクラスがみんなが居心地が良い、あたたかいクラスになれるんじゃないかなって思います。…

命って、自分のものだよね。自分のものだけれどもあなただけの命ではないんです。あなたは「おぎゃあ」って生まれてきました。生まれた時は、一人でご飯は食べられないし、おトイレだって行けないし、何にもできない。その何にもできないあなたを、あなたの周りにいる大人が、あなたのおうちの人が、夜寝る間も惜しんで、おむつを替え、ミルクをあげ、それであなたは大きくなってきたんだよ、今ここにいるんだよ。だからね、あなたの命は、あなたのものであっても、あなただけの命ではないんだよ。たくさんの人に守られて、たくさんの人に愛されて、ここまで来たんだよ。…

辛いことって誰にでもあるよ。嫌なことってたくさんあるよ。辛いことなんて山のようにある。その辛いことや嫌なことをどれだけ心に溜めないか、どれだけ自分で抱え込まないか、それが大事。辛いときは「辛い」って言っていいいんだよ。無理な時は「無理」って言っていいいんだよ。心の中に、あなたの辛さをいっぱいいっぱい貯め込んで、ある時、心がポキッと折れてしまったらどうしようもない。折れちゃう前に、あなたの辛さ、悲しみ、苦しみを少しずつ少しずつ、外に吐き出していってください。…

(講演内容を一部抜粋)

## 講演を聞いて

私は言葉にはたましいがあることが分かりました。これからは、どれだけイヤなことがあっても「死ね」「消えろ」「ウザイ」などと言わない。その発言で、人の命や未来をうばうことになるかもしれないから。 5年 井上 心

私はたまに生きていてつらい時や苦しい時があります。私がストレスを発散する時に物にあたってしまいます。そして、友達に話を聞いてもらい、初めてストレスが発散できています。講演を聞いて、「こう思っているのは、私だけじゃない」と思い、何だか胸が軽くなりました。 5年 平松 華



言葉には、すごい力があることを知って、気をつけなければいけないなと思いました。そういう言葉によって苦しんでいる人たちを助けられるような明るい人になりたいです。 5年 林 祥貴

自分だけの命ではない。周りの人々にも支えてもらっている大切な命だということを改めて感じる事ができた。自分が悩んでいる時、周りの人に助けをを求めるのも一つの勇気。その勇気がとても大切で世界に一つだけの命を救うことができる方法だと分かった。

6年 山口 結季

今まで命の意味をはっきりとは分かっていなかった。この講演を聞いて、自分の命は、自分だけのものではないということが、とても心に残りました。また、言葉というものをとても軽く考えていました。うれしい言葉は、うれしい記憶になる。悲しい言葉は、悲しい思い出になる。悲しい言葉、ひどい言葉は、何があっても言わない。 6年 幸田 奏重



人間はだれしも不幸だと思ふことがあり、自分だけが不幸だ、自分だけが苦しいわけではないということが分かりました。

「死ね」などの嫌な言葉は、日常で使ってしまう人もいるけれども、絶対に使ってはいけないと思いました。 6年 坂本 菜月

これから、友達や家族と過ごすときには、その人がうれしく思う言葉や、その人だけでなく周りの人たちも笑顔になれる言葉を使って、人のいやがる言葉や不快になる言葉は言わないようにしていきたいです。 6年 中村 爽空

## 保護者の声

- ・ 「言葉のこと」「命のこと」「笑顔の大切さ」について、自分の日常を振り返り考えることができました。「あなたの命はあなたのもだけど、あなただけの命ではない」ということが子どもたちに伝わってほしいと思います。
- ・ 子どもたちが話しかけてきても、自分が忙しいとあまり聞いてあげられなかったりするので、1日のうちほんの少しの時間でも話ができる時間をつくれたらいいなと思いました。
- ・ 我が子を失う悲しみや辛さは想像もつかないけれど、きっと計り知れないものだと思います。毎日そこにいる子どもが、ある日突然いなくなるということは、絶対にないことではないんだと改めて思いました。もっと、心にゆとりをもって、子どもの心の声を聞いて向き合うようにしてあげないといけないと反省させられました。
- ・ 講演は、親としてとても考えさせられました。普段自分自身の子どもへの接し方はもちろん、周りの人たちを思いやって接しているか、改めて振り返り、反省させられることも多かったです。
- ・ お子様を亡くされた方のお話を聞くのは初めてで、辛さ、悲しみが伝わってきました。その悲しみを乗り越えられようとしている姿、同じような思いをする子や家族を増やさないよう活動されている姿に心打たれました。
- ・ 「言霊」「命はあなただけのものではない」「今一瞬で判断しない」「あなたといると安心する」「生きていれば」「笑顔は魔法の道具」・・・心に残る言葉をたくさんいただきました。
- ・ 情緒不安定なときに一緒にイライラしたり、怒ったりしてしまうけれど、「笑顔」で、「どん！」と構えて接していこうと改めて考えさせられました。

